

新宮山彦ぐるーぷ第2394回

深仙宿瀧頂堂の調査を支援

◇実施日 10月7日(火) 小雨

◇参加者 梶野照雄、村吉光夫、瀧本昭太郎

・奈良文化財研究所 吉川 聡

・奈良文化財研究所(飛鳥資料館) 清野 陽一

・京都国立博物館 石田 由紀子

・京都国立博物館 末兼 俊彦

十津川村教育委員会事務局教育課

・大向 翔太

・大杉 綾花

・真下 卓也

10名

午前7時半過ぎに登山口に着く。奈良文化財研究所の2人以外は既に着いていた。我々以外にも登山者の車が2台あり、平日で天気が悪いにもかかわらず、相変わらず人気がある山だ。全員が揃い午前8時過ぎに登り始める。最後尾を村吉さんと瀧本さんをお願いして、ゆっくりと歩いた。初めて顔を合わせるメンバーなので、後ろを見ながらだったが、遅れる人もなく順調に歩を進めた。不動木屋谷登山道の分岐で休憩。脚立を括っていた背負子の肩ベルトの金具が切れるハプニングがあったが、ザックに固定して何とか運ぶこ

とが出来た。



登山口を出発

古田の森でも休憩し千丈平に着く。登山口から深仙宿まで、3時間を見込んでいたが、休憩も含めて2時間40分で到着した。



背負子が壊れる



深仙宿に着く



鰐口を降ろす



鰐口と吊り灯籠の調査



深仙宿に着き小屋からハシゴを灌頂堂へ運ぶ。ハシゴが短かった時のために延長する準備もしてきたが、立ててみると何とか届いたので延長は必要なかった。我々3人を除いた7人の方々は調査対象の前にすると研究者の顔に変わって、頭上の鰐口の写真を撮ることから始まり下に降りしてお堂内で調査が始まった。



鰐口を元に戻す

コーヒーを頂く

本日の参加者

お堂の扉は南側の一枚が建物の変形によって簡単に開かず、3人がかかりで30cmほどを動かした。北側の一枚は以前と同様、スムーズな開閉が可能だ。7人の皆さんは昼食も取らず調査にかかり切りだ。堂内の大きな吊り灯籠を調べていた一人が「裏側にも文字が見える」と言ったが、鏡も持ってきたようだ。鰐口を調べた研究者によると、彫られた年号と制作様式が異なるので、後世に作られたものに前の物にあった年号を彫ったのではないかと推測できるらしい。大きな吊り灯籠も3人で移動し、全体の写真を撮り、寸法も計測・記録していた。調査が終わり降りしていた鰐口を元の位置に戻した。

2時間20分に及ぶ調査が終わったのは午後1時20分だった。7人の皆さんを小屋に誘導して食事していただく。小屋では村吉さんは早くからガスバーナーを点けて、少し暖かくなっていた。食後は暖かいコーヒーも淹れていただいた。香精水が洩れていると困るので2リッターのペットボトルを担いできたそうだ。雨で気温も低いので、この配慮には頭が下がる。



千丈平で

全員無事下山

小屋前で集合写真を撮って深仙宿を後にした。千丈平、古田の森、不動木屋谷登山道分岐で休み、登山口に無事下山した。下りは休憩を含めて2時間25分だった。(記：梶野)

行動タイム

太尾登山口 08:09→08:44 不動木屋谷登山道分岐→09:33 古田の森→10:50 深仙宿 13:55→14:32 千丈平→15:46 不動木屋谷登山道分岐→16:21 太尾登山口